

東久留米市立第九小学校 第6学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を含めた言語事項の定着が十分でなく、漢字テストや作文において、つまずきが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や言語の学習方法を考え、交流したり、見直ししたりする時間を確保する。 作文等において、修正や添削の時間、互いに見合う時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テスト平均点80点以上を目指す。 作文やワークシートにおいて、正しい漢字や文言の活用、自分の考えを明確に表現することができる児童が8割以上。
	<ul style="list-style-type: none"> 読解力が十分身に付いておらず、物語の内容や作者の考え、また問題の意図をきちんと理解できていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業に音読を取り入れ、正確に読めるようにする。 単元のめあてや授業の最初の本時のねらい、問題におけるポイントを全体でその都度確認し、意図をもって問題に取り組んだり文章を読んだりさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価テスト平均80点以上を目指す。 問題に対して的確に答えたりノートに書いたりできる児童が8割以上。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章題において、題意を読み取れずに考えることをあきらめてしまったり、複雑そうな問題に対して最初からどうしていいのかわからなくなってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を区切り、絵や図に表すことによって、問題を俯瞰できるように指導する。複雑な問題でも、スモールステップにすることによって取り組みへの意欲を高めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考・判断・表現で、70%の児童が単元テストで70%以上の得点率になることを目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> 小数、分数の計算が苦手な児童が多い。特に、小数と分数が混じった計算では特にその傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 通分、約分、分数を小数に直すことを苦手としている児童が多いため、小数や分数の計算が出てきた際に復習を行う。場合によっては九九の復習も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回を目安に計算練習を取り入れ、基礎力をつけ自力で計算ができる児童80%以上を目指す。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 考察の場面において、予想や結果を受けより妥当な考えをつくり出すことが苦手で未記入の児童が約4割である。 	<ul style="list-style-type: none"> まとめる思考が高まるよう「つまり」「この結果から」という言葉を使わせる。また、未記入のままにしないよう、考察に入っているとよいキーワード等を全体で共有し、自らの考察を加筆修正させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの考察の記述とテストの考察を問う問題において、児童の8割が80%以上となることを目指す。（各単元1回以上）
	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具を正しく使用することができない児童が約3割いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具の使い方を正しく理解できるように解説しながら演示する。また、実験器具の使用に慣れることができるよう、一人一実験を基本として毎時間全員が体験できるように実験準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験時の器具の扱い方を評価する。授業中の観察とテストの技能面で、児童の8割が80%以上となることを目指す。（各単元1回以上）
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> 中心発問では考えの広がりがなく定型的で、道徳的価値を十分理解したり、物事を多面的・多角的にとらえたりすることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値を十分理解した上で自分の考えをもてるように、資料や児童の実態に応じた発問（①場面を問う、②人物を問う、③資料を問う、④価値を問う）を段階的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体やグループの話合いでの発言・発表、ワークシートの記述内容から見取る。（自分の考えを言う・書くことができている児童8割、その時間のテーマについて書いている児童7割を目指す。）
	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容を自分事として捉えることが難しく、自我関与を意識しないままの児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の中で児童に身近な状況を教師が提示したり想起させたりすることで、登場人物に自己を投影させながら自分の考えを明らかにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発問に対する意見、ワークシートの記述内容から見取る。（自分の考えを表現できている児童8割、自分事として話したり書いたりできている児童7割を目指す。）